

中間検査チェックシートの取り扱いについて（概要）

- ◆検査申請時に添付するシートは、原則としてA表+B表に建築物の構造に応じたC 1～5表を添付する。ただし平屋の建築物で指定工程が基礎工程のみである場合には、A表+B表のみの添付とする。
- ◆指定工程が2回（RC造等）の場合は、基礎工程の検査申請時にA表+B表を添付し、上部工程の検査申請時にはC 3～5表のいずれかのみ添付する。
- ◆SRC造については、上部工程の検査申請時にはC 3，C 4表の両方を添付する。
- ◆混構造の場合の検査工程については、主たる構造の指定内容に従うが、チェックシートについてはC 1表～5表のうち、混在する各構造に応じたすべてのシートを添付する。

中間検査チェックシートA表
(集団規定)

確認済証番号	第H 確認建築滋建住 号
確認済年月日	平成 年 月 日

検査項目	照 合 内 容	工 事 監 理 者	検 査 記 録		
			A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果	修正
1 確認の表示 (法第89条)	ア 表示の有無、表示内容の適否		A:B:C	適・否	
2 敷地の安全性 (法第19条)	ア がけ、擁壁の安全性		A:B:C	適・否	
3 敷地と道路との関係 (法第42条及び43条)	ア 道路の幅員		A:B:C	適・否	
	イ 道路に接する敷地の長さ		A:B:C	適・否	
	ウ 法第42条第2項道路の後退		A:B:C	適・否	
	エ 法第43条許可との整合		A:B:C	適・否	
4 敷地形状及び建物配置等 (法第52～54条の2)	ア 敷地の形状等(敷地の形・境界ポイント及び高低差等)		A:B:C	適・否	
	イ 建物の配置(道路・隣地境界からの寸法距離)		A:B:C	適・否	
	ウ 既存建物の有無(建ぺい率、容積率等)		A:B:C	適・否	
5 斜線制限 (法第56条、56条の2)	ア 建築確認図書の立面図、断面図との整合		A:B:C	適・否	
	イ 道路からの後退距離等 (道路との高低差、緩和範囲内の門・塀等の高さ等)		A:B:C	適・否	
	ウ 隣地からの後退距離		A:B:C	適・否	
	エ 北側敷地との高低差、配置寸法等		A:B:C	適・否	
6 工事現場の 危害防止 (法第90条)	ア 仮囲い等の設置状況		A:B:C	適・否	
	イ 危害防止措置(根切りによる転倒防止等)		A:B:C	適・否	
	ウ その他		A:B:C	適・否	
7 その他	ア		A:B:C	適・否	
	イ		A:B:C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格 ・ 不合格 ・ 合格保留	後続工程	可 ・ 不可	工事監理者名 (検査立会者)

中間検査チェックシートB表 (基礎工程)

検査項目		照 合 内 容		工 事 監 理 者	検 査 記 録			
					A : 目視検査 B : 実測検査 C : 監理者報告	結果	修正	
1	基礎概要	ア	種別の確認(独立、連続、ベタ、杭、地盤改良等)		A : B : C	適・否		
		イ	支持地盤の確認		A : B : C	適・否		
2	使用材料	ア	鋼材の種類		A : B : C	適・否		
		イ	コンクリートの種類、配合		A : B : C	適・否		
3※	基本構造体の確認	ア	形状・寸法		A : B : C	適・否		
		イ	鉄筋の径、本数、配置等		A : B : C	適・否		
		ウ	継ぎ手の位置、定着長さ等		A : B : C	適・否		
		エ	かぶり厚		A : B : C	適・否		
		オ	耐圧版の厚さ		A : B : C	適・否		
4※	基礎構造体の確認	ア	全体形状及び部材配置	建築物の平面形状		A : B : C	適・否	
				柱、地中梁等の配置		A : B : C	適・否	
		イ	ベース	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
				主筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
				かぶり厚		A : B : C	適・否	
		ウ	耐圧版	主筋及び配力筋の径、配置等		A : B : C	適・否	
				耐圧版の厚さ		A : B : C	適・否	
				かぶり厚		A : B : C	適・否	
		エ	柱	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
				主筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
				継手位置、定着長さ、フック		A : B : C	適・否	
				帯筋の径、配置等		A : B : C	適・否	
				かぶり厚		A : B : C	適・否	
		オ	地中梁	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
				主筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
				中吊り筋(2段筋)の位置		A : B : C	適・否	
				継手位置、定着長さ、フック		A : B : C	適・否	
				あばら筋及び幅止め筋の径、配置等		A : B : C	適・否	
				貫通孔の補強筋		A : B : C	適・否	
		カ	圧接継手	継手の位置		A : B : C	適・否	
圧接の外観、ふくらみ				A : B : C	適・否			
キ	型 枠	各部分の寸法		A : B : C	適・否			
		せき板、支保工等の設置状況		A : B : C	適・否			
		型枠内の清掃、異物の除去		A : B : C	適・否			
ク	その他	差し筋の設置状況		A : B : C	適・否			
				A : B : C	適・否			
				A : B : C	適・否			

5	杭基礎	ア	杭芯位置の確認		A : B : C	適・否	
		イ	杭の種別、径、長さ、本数等		A : B : C	適・否	
		ウ	継手の溶接状況		A : B : C	適・否	
		エ	杭頭のレベル、偏芯等の確認		A : B : C	適・否	
		オ	杭周充填液等の配合、強度試験		A : B : C	適・否	
		カ	場所打ち杭の掘削孔径、深さ等		A : B : C	適・否	
		キ	場所打ち杭のかご鉄筋の仕様		A : B : C	適・否	
		ク	場所打ち杭のコンクリートの配合、強度等		A : B : C	適・否	
		ケ	支持層到達の確認		A : B : C	適・否	
		コ	杭芯ずれによる補強筋の追加		A : B : C	適・否	
6	地盤改良工事	ア	施工範囲、改良厚等		A : B : C	適・否	
		イ	改良剤の添加量		A : B : C	適・否	
		ウ	埋戻し、転圧状況		A : B : C	適・否	
		エ	改良地盤耐力の確認		A : B : C	適・否	
7	地業工事等	ア	栗石、砕石等の敷き均し・転圧		A : B : C	適・否	
		イ	埋戻し土の転圧		A : B : C	適・否	
8	その他	ア			A : B : C	適・否	
		イ			A : B : C	適・否	
		ウ			A : B : C	適・否	
		エ			A : B : C	適・否	
		オ			A : B : C	適・否	
		カ			A : B : C	適・否	
		ク			A : B : C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
 なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

工事監理者への 指摘事項	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名（検査立会者）

※ 鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造及びプレキャスト鉄筋コンクリート造の建築物については、基礎構造体の確認欄は4に記入することとし、3は記入不要とする。
 補強コンクリートブロック造及び組積造については、基礎構造体の確認欄は3に記入することとする
 が必要に応じて4欄の該当項目についても記入すること。

中間検査チェックシート C1表 (木造軸組構造)

検査項目	照 合 内 容		工 事 監 理 者	検 査 記 録		
				A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果	修正
1 全体形状 及び 部材の配置	ア	建築物の形状		A : B : C	適・否	
	イ	柱の配置		A : B : C	適・否	
	ウ	耐力壁の配置		A : B : C	適・否	
	エ	小屋組の形状		A : B : C	適・否	
2 基礎	ア	床下換気口等の設置		A : B : C	適・否	
	イ	構造体のひび割れの有無		A : B : C	適・否	
3 土 台	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	アンカーボルトの据付及び緊結状況		A : B : C	適・否	
	ウ	火打ち材の設置		A : B : C	適・否	
4 柱	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	通し柱の設置		A : B : C	適・否	
	ウ	接合金物の設置		A : B : C	適・否	
	エ	部材の緊結		A : B : C	適・否	
5 横架材	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	部材下部中央の欠き込み禁止		A : B : C	適・否	
	ウ	部材の緊結		A : B : C	適・否	
6 耐力壁	ア	筋交い	部材の形状・寸法	A : B : C	適・否	
			補強金物の取り付け	A : B : C	適・否	
			欠き込み禁止	A : B : C	適・否	
	イ	壁 材	板材の厚さ	A : B : C	適・否	
			壁材の釘留め状況	A : B : C	適・否	
7 床 組	ア	大引、根太の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	火打ち材		A : B : C	適・否	
	ウ	剛性床		A : B : C	適・否	
8 小屋組	ア	母屋、垂木の形状、寸法、部材の緊結等		A : B : C	適・否	
	イ	振れ止め		A : B : C	適・否	
9 その他	ア	地盤面からの床高さ		A : B : C	適・否	
	イ	防腐、防蟻措置		A : B : C	適・否	
	ウ			A : B : C	適・否	

※工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
 なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名 (検査立会者)

中間検査チェックシート C2 (木造枠組壁構造)

検査項目	照 合 内 容	工 事 監 理 者	検 査 記 録		
			A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の形状	A : B : C	適・否	
	イ	柱の配置	A : B : C	適・否	
	ウ	耐力壁の配置	A : B : C	適・否	
	エ	小屋組の形状	A : B : C	適・否	
2 使用材料	ア	木材、合板の種類	A : B : C	適・否	
	イ	緊結金物	A : B : C	適・否	
3 基礎	ア	床下換気口等の設置	A : B : C	適・否	
	イ	構造体のひび割れの有無	A : B : C	適・否	
4 土 台	ア	部材の形状・寸法	A : B : C	適・否	
	イ	アンカーボルトの据付及び緊結状況	A : B : C	適・否	
5 床 構 面	ア	根太の形状、寸法、配置	A : B : C	適・否	
	イ	開口部の補強	A : B : C	適・否	
	ウ	耐力壁下根太補強	A : B : C	適・否	
	エ	転び止め	A : B : C	適・否	
	オ	床材の釘留め	A : B : C	適・否	
6 耐 力 壁	ア	たて枠の配置	A : B : C	適・否	
	イ	隅角部、交差部の補強	A : B : C	適・否	
	ウ	頭つなぎ	A : B : C	適・否	
	エ	まぐさ、まぐさ受け	A : B : C	適・否	
	オ	壁材の釘留め	A : B : C	適・否	
	カ	ホールダウン金物の取付け	A : B : C	適・否	
7 小 屋 組	ア	垂木の形状、寸法	A : B : C	適・否	
	イ	垂木つなぎ	A : B : C	適・否	
	ウ	垂木、トラスの緊結	A : B : C	適・否	
	エ	振れ止め	A : B : C	適・否	
8 そ の 他	ア	地盤面からの床高さ	A : B : C	適・否	
	イ	防腐、防蟻措置	A : B : C	適・否	
	ウ		A : B : C	適・否	

※工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
 なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

中間検査チェックシートC3（鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造）

検査項目	照 合 内 容		工 事 監 理 者	検 査 記 録		
				A：目視検査 B：実測検査 C：監理者報告	結果	修正
1 全体形状 及び 部材の配置	ア	建築物の形状		A : B : C	適・否	
	イ	建方の精度		A : B : C	適・否	
	ウ	柱、梁の配置		A : B : C	適・否	
	エ	垂直、水平ブレースの配置		A : B : C	適・否	
	オ	剛性床の配置		A : B : C	適・否	
2 使用材料	ア	鋼材の種類		A : B : C	適・否	
	イ	高力ボルトの規格		A : B : C	適・否	
3 柱	ア	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
	イ	溶接箇所の外観		A : B : C	適・否	
	ウ	ベースプレート寸法、モルタル充填等		A : B : C	適・否	
	エ	アンカーボルトの径、本数、締付け状況等		A : B : C	適・否	
	オ	露出型固定柱脚のチェックシート		A : B : C	適・否	
4 大 梁	ア	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
	イ	ボルトの種類、径、本数、締付け状況等		A : B : C	適・否	
	ウ	溶接箇所外観		A : B : C	適・否	
5 小 梁	ア	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
	イ	ボルトの種類、径、本数、締付け状況等		A : B : C	適・否	
	ウ	溶接箇所の外観		A : B : C	適・否	
6 柱・梁の仕口	ア	溶接箇所の外観		A : B : C	適・否	
7 床	ア	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
	イ	梁との接合方法		A : B : C	適・否	
8 ブレース	ア	部材の形状、寸法及び位置		A : B : C	適・否	
	イ	取付け方法		A : B : C	適・否	
9 その他	ア	防錆処理		A : B : C	適・否	
	イ	溶接部分の非破壊試験		A : B : C	適・否	
	ウ	梁貫通孔の補強		A : B : C	適・否	
	エ			A : B : C	適・否	

※工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
 なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

--

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可、不可	工事監理者名（検査立会者）

中間検査チェックシートC4（鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造）

検査項目	照 合 内 容		工 事 監 理 者	検 査 記 録		
				A：目視検査 B：実測検査 C：監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の平面形状		A：B：C	適・否	
	イ	柱、梁の配置		A：B：C	適・否	
2 使用材料	ア	鋼材の種類		A：B：C	適・否	
3 柱	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋の径、本数、配置		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	帯筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	オ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
4 大 梁	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋の径、本数、配置、中吊り筋（2段筋）の位置		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	あばら筋及び幅止め筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	オ	貫通孔の補強筋		A：B：C	適・否	
	カ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
5 壁	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	ウ	継ぎ手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	開口部の補強筋及び幅止め筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	オ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
6 床・階段	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋及び配力筋の径、配置		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	開口部の補強筋		A：B：C	適・否	
	オ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
7 圧接継手	ア	継手の位置		A：B：C	適・否	
	イ	圧接部の外観、ふくらみ		A：B：C	適・否	
8 型 枠	ア	各部分の寸法		A：B：C	適・否	
	イ	せき板、支保工等の設置状況		A：B：C	適・否	
	ウ	型枠内の清掃、異物の除去		A：B：C	適・否	
9 その他	ア	差し筋の設置状況		A：B：C	適・否	
	イ			A：B：C	適・否	

※工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
 なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名（検査立会者）

中間検査チェックシートC5表（プレキャスト鉄筋コンクリート造）

検査項目	照 合 内 容		工 事 監 理 者	検 査 記 録		
				A：目視検査 B：実測検査 C：監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の平面形状		A : B : C	適・否	
		プレキャストの配置		A : B : C	適・否	
2 プレキャスト部材	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
		製作材料の品質		A : B : C	適・否	
		鉄筋、型枠の加工、組み立て		A : B : C	適・否	
		コンクリートの打設状況		A : B : C	適・否	
		養生、脱型及びひび割れ防止対策等		A : B : C	適・否	
		コンクリートの所要強度		A : B : C	適・否	
		プレストレスの導入		A : B : C	適・否	
		製品出荷時の品質確認検査		A : B : C	適・否	
3 組立・建て方	ア	組立・建て方の精度		A : B : C	適・否	
		接合部の仕様、接合状況		A : B : C	適・否	
		継手部分の検査		A : B : C	適・否	
		ひび割れ破損の有無		A : B : C	適・否	
4 現場施工部分	ア	鉄 筋	部材の形状寸法		A : B : C	適・否
			鉄筋の径、配置等		A : B : C	適・否
			継手位置、定着長さ、フック等 かぶり厚さ		A : B : C	適・否
	イ	型 枠	各部の寸法		A : B : C	適・否
			せき板、支保工の等の設置状況		A : B : C	適・否
			型枠内の清掃、異物の除去		A : B : C	適・否
5 その他	ア			A : B : C	適・否	
				A : B : C	適・否	
				A : B : C	適・否	
				A : B : C	適・否	
				A : B : C	適・否	
				A : B : C	適・否	

※工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。
 なお、否の場合は、それに対する措置等を下記に記入のこと。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名（検査立会者）